

「折れ線グラフ」

1 提案の主張点

基礎・基本の習得のための、学年解体による均等割少数指導の後、診断テストや「分かったよカード」により自己評価をし、発展・補充学習としての、学年解体による習熟度別コース選択学習（世界の気温コース、水温・気温コース、飯山町のごみコース）を行う。興味・関心を重視したコース設定により、意欲的に課題に取り組むことができた。

2 提案に対する意見

Q. 折れ線グラフの目盛りのとり方で、変化の大きさをとらえるために目盛りの一部分を省略することがあるが、「変化がないことを見るためには省略するのはおかしい」と言う子がいた。省略しない理由づけができたら発展的な力がついているといえるだろうか。

A. 教師のねらいが大切。「何をどう育てていくか」である。子どもたちの「こうかきたい」があればうけとめてやりたい。

Q. コース選択の希望と助言について。

A. コースによる多少の人数の変化はかまわないと思う。子どもの希望は尊重したいが、「もう少しここでやってみてそれからにしない？」というはたらきかけも必要。「私はまだ十分かけないから コース」と書いた子の決定カードを見て感心した。

Q. 理解した上でコース選択はできているか。他の単元でコース別学習の予定は？

A. 説明を十分にしているので無茶な選択はない。「変わり方」の単元でも予定している。1学期は学年解体による少人数を基本にしている。

3 御指導

棒グラフと折れ線グラフの違いが授業をしてみて明確になる。棒グラフは比較。折れ線グラフは変わり方。違いを明確にすることで、よさがよくわかる。なぜ折れ線グラフにするかという問題を子どもはとらえていなかった。

た。よさがわかるようにする。

何をもって習熟度とするか。「分かったよカード」で、単元の中での学習を見通しをもって進めていけるような気がする。自分がのびたところがある。さらに改良を加えて、自分がのびたところが見えてくると、生きたカードになる。

興味・関心と技能の定着がマッチしたコース別学習であること。教師と話し合いながら振り返らせてみる。

コース別学習の終わりには違うコースの人と語り合う時間を設定する必要がある。

コース設定では教師のねらいがしっかりしていないとガイダンスができない。コース選択というからには自己選択力を身につけていないといけない。3年生では、かなりガイダンスの時間をとらないといけない。選択はどうだったかを振り返る時間がないと、次も選択を誤る。

棒グラフから折れ線グラフにつなぐとき、棒グラフを否定的に見るのでなく、活用のねらいを子どもに感じさせてほしい。折れ線グラフのよさを感じ取るのがよい。

習熟度別ではCコースの指導が大変というが、Cのレベルの子どもでも生き生きと取り組む授業は、ある。発言や前に出での発表、質問が活発である。Cはやりにくいという先入観があると、できにくい。

子どもたちに確かな力をつけるということで、繰り返し指導が目されている。全く同じことを繰り返し書かせたり、考え方を繰り返させたりする。学んできたことを子どもが振り返る。「分かったよカード」を見て、自分のことばで自分を振り返っている。既習の内容を使ったよということがわかり、新たな学びとなる。子どもが育ってきている。

